

カンボジア政府統計能力向上プロジェクト・フェーズ 2 の概要

～ 総務省統計局が支援する政府開発援助（ODA） ～

はじめに

総務省統計局が中心となって支援している政府開発援助（ODA）であるカンボジア政府統計能力向上プロジェクト・フェーズ 2 が、2007 年 4 月 23 日から 2010 年 9 月 30 日までの約 3 年半の予定で実施されている。このプロジェクトでは、主に 2008 年カンボジア人口センサス（国勢調査）を支援している。

本プロジェクトは、（独）国際協力機構（JICA）によるカンボジア計画省統計局（以下「NIS」という。）に対する技術協力プロジェクトであるが、総務省統計局を中心に、総務省統計研修所、（独）統計センター、（財）日本統計協会、（財）統計情報研究開発センター及び ICONS 国際協力（株）が一体となって支援している官民合同型のプロジェクトである。

また併せて、我が国の全面的な支援により、カンボジア計画省構内に新たに統計センター（仮称）を建設中である。さらに、2008 年カンボジア人口センサスについては、国連人口基金（UNFPA）及びドイツ政府と連携して協力しており、我が国は技術協力と共に資金の約半分を支援している。



写真 1 建設が進むカンボジアの新しい統計センター（仮称）

本プロジェクトの活動内容は、以下の総務省統計局のホームページに掲載している。

<http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/phase2.htm>

なお、フェーズ1は、統計研修支援を中心に2005年8月28日から2007年3月31日まで実施した。

1. プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、NIS職員、地方統計職員及び各省庁統計職員を対象として、我が国の技術指導により、カンボジアの人口センサス及び関連する統計調査の実施能力を向上させることである。

2. プロジェクトの活動内容

(1) 統計局職員をカンボジアへ派遣

総務省統計局は、我が国の国勢調査（人口センサス）等に関する優れた技術をカンボジアに移転するために、職員2名（統計研修所及び（独）統計センター職員を含む）を、おおむね3か月ごとに、専門家としてNISへ短期派遣（毎回3週間程度）している。また併せて、民間からの専門家も随時派遣されている。

具体的な技術指導の内容は、後出（4）のとおりである。

(2) カンボジア人研修員を我が国へ受け入れ

人口センサス及び関連する統計調査について主導可能な人材をカンボジア側に育成するために、NIS職員（3名程度）を、毎年1か月程度、研修員として総務省統計局を始めとした我が国の統計機関等において受け入れる。



写真2 カンボジア人研修員に対する（独）統計センターにおける
情報処理研修の様子

(3) カンボジア人研修員をインドネシアへ派遣

人口センサス及び関連する統計調査について主導可能な人材をカンボジア側に育成するために、N I S 職員(2名程度)を、毎年1週間程度、研修員としてインドネシア中央統計庁(BPS, Statistics Indonesia)へ派遣する。

なお、総務省統計局は、インドネシア中央統計庁に対して、1980年以来、断続的ではあるものの、長きにわたって技術協力を実施している。

(4) 技術指導

我が国から派遣された専門家は、主に以下の2点について技術指導を行っている。

2008年カンボジア人口センサスの企画、集計(プログラミング等)、分析、結果提供等に関する技術指導

事業所名簿整備及び事業所調査の企画、集計、分析、結果提供等に関する技術指導



写真3 職員による人口センサスの技術指導の様子

(5) プロジェクト関連施設・設備の充実

前述のとおり、カンボジア計画省構内に新たに統計センター(仮称)を建設中である(2007年12月完成予定)。この建物は、6階建てで、集計室、研修室、図書館、データ提供センター等が配置される予定である。また併せて、人口センサス等の結果を早期に公表できるようにパソコン等の集計・結果提供用の機材を充実する。

(6) 各省庁に対する統計研修の実施

N I Sのみならず各省庁についても統計機関の能力向上を図るために、各省庁の統計職員に対し、統計研修を実施する。

(7) 地方に対する統計研修の実施

中央のみならず地方についても統計機関の能力向上を図るために、地方の統計職員に対し、統計研修を実施する。

(8) 人口センサス・セミナー等の開催

本プロジェクトの活動を内外に広くアピールすることを主な目的として、人口センサス・セミナー等をカンボジア国内で数回開催する。これらのセミナーには、カンボジア政府統計関係者、国際機関、各国政府援助機関、NGO、カンボジアのメディア等を招集する予定である。



写真4 カンボジア人研修員と若手職員との交流

おわりに

国と国との交流の基をなすのは、人と人の交流である。本プロジェクトのフェーズ1とフェーズ2を通じて、両国の若手職員同士の交流の場が数多くあったことは誠に幸いである。技術協力のみならず、人と人の触れ合いが、カンボジアと我が国の永い友好関係につながれば、それは政府開発援助として期待される最善の結果であろう。